

山田 貴代 講師  
博士(保健学)

Takayo Yamada

✉ takayo.yamada@komatsu-u.ac.jp

研究  
Keyword

母性看護、助産師教育、産後ケア、診療報酬明細書(レセプト)分析

## プロフィール

2004年 静岡県立大学 大学院看護学研究科 修士課程 修了  
 2007年 静岡県立大学 看護学部 助教  
 2018年 金沢大学 医薬保健学総合研究科 保健学専攻 博士後期課程 修了  
 2020年 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 講師

## 研究分野

母性看護学、助産学、医療社会学

## 所属学会

日本助産学会、日本医療・病院管理学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、静岡母性衛生学会

## 専門分野・研究分野

## 妊婦健康診査の実践能力に関する研究

日本の助産師教育の実習の中心は、分娩介助でした。そのため、妊婦健康診査の実践能力に関する研究は多くありませんでした。しかし、産科医師の減少に対するサポート体制として、産科医師と助産師の業務の役割分担が必要とされるようになり、助産師には、分娩介助だけでなく、ローリスク妊婦への妊婦健康診査の実践能力も求められています。そのため、助産師が卒業する際に求められる妊娠期のケアは高い到達度が求められています。そこで、妊婦健康診査実習での学生の学びや自己評価、評価方法についての研究を行っています。

また、診療報酬明細書(レセプト)の分析により、地域での受診状況に関する研究も行っています。

## 研究内容

## ルーブリック評価表を用いた妊婦健診実習の評価

妊婦健康診査の実践能力の向上のため、実習での評価が重要であると考えました。そこで、まず実習記録についてルーブリック評価表を開発しました。ルーブリックは「子どもの学習成果を評価するための一セットの得点化指標である」とされています。ルーブリックを用いることにより、タイミングの良いフィードバック、学生による詳細なフィードバックの活用、平等な学習環境づくりが得られるとされています。従来の評価表との比較で評価者間の評価の差異が少ないという示唆も得られました。そして、妊婦健康診査実習に導入し、学生から「自分の課題がわかりやすかった」という評価が得られました。ルーブリック評価表を妊婦健康診査の技術、母性看護学実習で作成してこうと考えています。

表 妊婦健康診査実習のルーブリック(一部抜粋)

健診の要素	A(3点)	B(2点)	C(1点)	D(0点)
受診目的にそった診察の要点	妊婦の受診目的と妊娠週数に応じた診察内容と適切な診察方法が <b>できている</b>	妊婦の受診目的と妊娠週数に応じた診察内容と診察方法に <b>一部不足があるが、かなりできている</b>	妊婦の受診目的と妊娠週数に応じた診察内容と診察方法の選択に、 <b>かなり不足がある</b>	妊婦の受診目的と妊娠週数に応じた診察内容と診察方法を <b>理解していない</b>
妊娠週数にあった適切な情報収集	妊娠週数にあった必要かつ重要な情報が系統的に <b>十分に</b> 収集できており、優先度、緊急度によってよく <b>選択・整理</b> されている	妊娠週数にあった必要かつ重要な情報が系統的に <b>ほぼ</b> 収集できており、優先度、緊急度によって <b>ほぼ選択・整理</b> されている	妊娠週数にあった必要かつ重要な情報収集に <b>不足があり</b> 、優先度、緊急度の <b>情報収集が整理</b> されていない	妊娠週数にあった必要な情報の選択、収集が <b>されていない</b>
妊婦からの情報収集(コミュニケーションスキル)	妊婦からのS情報は今後の経過予測に影響する <b>生活情報も十分に</b> 引出せており、 <b>妊婦の個性がアセスメントやケアに活かせる情報</b> が収集できている	妊婦からのS情報は現在の状態の <b>アセスメントに活かせる程度に</b> 聴けており、 <b>一般的なアセスメントやケアに活かせる情報</b> が収集できている	妊婦からのS情報はアセスメントやケアに活かせる <b>情報が収集不足</b> している	妊婦のS情報が <b>まったく不足</b> しており、 <b>基本的なS情報の収集</b> に対する課題がかなり大きい



妊婦健康診査実習をルーブリックで学びやすく

## シーズ・地域連携テーマ例

- 妊婦健康診査の実践能力
- 母性看護教育についてのルーブリック開発
- 診療報酬明細書データ分析による受診状況分析

## 論文

- Inter-Evaluator Consistency in Evaluation of Midwifery Students' Records in Clinical Practice for Antenatal Health Check-ups: Effectiveness of a Developed Rubric, Yamada T et al., Journal of Wellness and Health Care, 41(1), p.71~p.85, 2018
- 大学院教育と学部教育の妊婦健康診査実習前後の助産実践能力に対する自己評価の比較, 山田貴代, 松岡恵, 西川浩昭, Journal of Wellness and Health Care, 41(2), p.139~p.150, 2019
- 子育て世代包括支援センターの現状と課題, 高木静, 東野定律, 山田貴代, 経営情報イノベーション研究, 第8巻, p.1~p.10

## 講演・口頭発表等

- 産後早期から1ヵ月にかけてのエンジンバラ産後うつ評価表(EPDS)の変化と関連要因, 高木静, 山田貴代, 田村圭浩, 鈴木公基, 第61回日本母性衛生学会, 2020年
- 母性看護学分野における分娩期看護のシミュレーション教育の実践評価, 山田貴代, 坂本めぐみ, 久司瑠璃子, 第62回日本母性衛生学会, 2021年
- 産後ケア事業の利用状況と課題~第1報 I 県における利用の実態~, 山田貴代, 坂本めぐみ, 久司留理子, 第64回日本母性衛生学会, 2023年
- 産後ケア事業の利用状況と課題~第2報 産後ケア事業の担当者がとらえる課題~, 山田貴代, 坂本めぐみ, 久司留理子, 第64回日本母性衛生学会, 2023年

## 競争的資金等の研究課題

- 成人教育に基づく助産師の妊婦健診・ケア能力形成プログラムの検討, 科学研究費補助金(基盤研究C) 2010年~2012年
- 外国人患者と医療者間におけるコミュニケーション・ギャップの実証研究, 科学研究費補助金(基盤研究C) 2009年~2011年